

J I A NAGANO- KEN CLUB

Vol.81
2009
03.25

J I A 長野県クラブ

(社)日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
jia-naga@jeans.ocn.ne.jp



文化講演会



会員作品展



卒業設計コンクール受賞者

お疲れ様でした！……建築祭を終えて……川上 恵一

当クラブの建築祭も、毎年の活動を締めくくる恒例行事になりました。クラブ発足まもなくの頃から始まった長野県学生卒業設計コンクールは第18回、文化講演会は17回目を数えるまでになり、新しく始まった会員作品展と発表会も今年で3回目となります。これら3つのイベントが、2月21日・22日の2日間に渡って開催されましたが、「継続は力なり」ということをことさらに感じます。

建築祭は、当会の理念にもあるように、建築設計を通しての地域貢献を大前提としながら、個の集団としての結束力を培い研鑽を積むこと、市民に開かれること、後輩を育成すること、などを目的にしています。その手段は、時を経るなかで知恵が盛り込まれ改良され、いつも新鮮です。

今回は会場を松本に移し、松本市美術館との共同開催という形になりました。美術館での開催ということで、用と美が一体となったばかりでなく、市民に開かれ、人的な面でも費用面でも都合が良く、また情報発信力やアクセスの点でもかなりのメリットがあったと思います。

具体的な報告は各担当者に任せますが、私が一番良かったと思う点はこのイベントを開催するプロセスです。参加者全員が代わる代わる主役となって役割を果たす全員参加型の運営によって、個人では到底なしえなかった大きな成

果が出たことです。担当の事業委員会は、荒井前委員長から藤松新委員長に引き継がれ、ほぼ1年をかけての企画・運営と、水面下での準備は大変なものでした。私たちの日頃の仕事では、施主と自分だけが満足すれば良いものを、会全体のために時間も知恵も汗も出して事に当たったみなさんのご苦勞は測り知れません。「やるからには良い結果を出そう！」と思っても、慣れた設計行為のように進まない。そんなジレンマのなかで工夫を重ね、初めてのことに挑戦して結果を出したことは、やはりみんなの「力」だとつくづく思います。

なかでもコンクールでの信州大学の出席有無の問題、県下4高校と専門学校の作品の数や内容の充実度、会場の問題、費用やスケジュール、また文化講演会の人選と具体的な詰め、それら全てのアナウンスや人の手配などなど、むずかしい問題を全て解決して、みんなが納得のいく結果を出すことができたことは、当会にとっても大きな自信になったと思います。やればできる。よかった、よかった。設計のできる仲間はいざとなれば皆人並み以上に優れていると思うのは僕だけでしょうか。参加した人は有形無形の財産を得たにちがいません。都合で出られなかった人は残念でした。みなさん、本当にご苦勞様でした。慣れたところで藤松委員長来年もまたヨロシク！皆さんもまたヨロシク！

2月21日(土)22日(日)の2日間、松本市美術館において建築祭が開かれました。市民に開かれた「建築祭」は3回目を迎え、本年度は松本市美術館との共同開催となりました。2月7日から3月28日までの約2ヵ月間にわたり、一見つめよう！くらしの場ー「ひと・まち・建築」を共通テーマに、様々な講座が開かれ、その企画のひとつに建築祭が位置付けられ、長野県卒業設計コンクール、文化講演会、建築作品展の3本立てで行われました。

◇長野県卒業設計コンクール

21日(土)、美術館内講座室・市民アトリエを会場に一日かけて審査が行われました。高校4校18名、専門学校1校13名、大学1校9名、合計40名の参加があり、午前中一次審査。審査員各自でコンセプトワーク、機能性、形態、芸術、表現力、社会性、将来性といった項目に従い各作品の図面審査を行い点数化しました。審査員の合計点の多い、高校7名、専門学校9名、大学全員9名が2次審査に残り、作品の前でプレゼンを行いました。最終審査は審査員が4名を選び、賞を決定していきました。審査はすべて公開で行われました。終了後、フリートークの時間を設け、参加した学生との親睦を深めました。

◇文化講演会

22日(日)、建築家・高宮真介氏を迎え、「建築の場所性について」講演をしていただきました。建築を設計していく中で、敷地条件に重みを置き場所にこだわる建築をされていることを

話されました。場所の文脈を理解する・場所の概念・風景をつくる・風景につくられる等作品を通して、とても分かりやすく解説してくれました。講演の前に、学生コンクールの作品展示や会員作品展等建築祭会場を見ていただきました。

また、後日、事業委員長あてに高宮氏よりメールで「JIA長野県クラブのみなさまの活動が非常に印象的でした。会員数が丁度いいというのがあるかと思いますが、会員互助それに社会貢献などすばらしいと思いました。」というコメントをいただきました。

◇会員作品展

21日(土)・22日(日)、二日間にわたり、作品展示を行いました。会員37名の出展があり多くの皆さんが参加しました。22日午前中には作品発表会が行われ、各自作品の発表と質疑応答がありました。会員同士の作品を通して様々な意見交換の場となりました。美術館に訪れた方々の見学も多く、作品を見ていただくよい機会になりました。



会員作品展



卒業設計コンクール審査風景



卒業設計コンクール終了後のフリートーク



文化講演会

建築祭を終えて

事業委員長 藤松 幹雄

長野より松本に会場を移した第三回建築祭が無事終了いたしました。今回は松本市美術館との共同開催となり、「見つめようくらしの場、ひと、まち、建築」と題し市民に開かれた建築祭となりました。松本市美術館では、身近な生活に目を向け「くらしの美」をテーマとした活動に取組み、生活に関わる工芸や、建築・街、デザインといった分野を視野に人とまちとの関係づくりを提案していました。JIA長野県クラブでも市民や若い世代に向けた後進育成の事業として、文化講演会・卒業設計コンクールを開催して参りました。

アプローチの違いはあっても目的が共有でき、それぞれが独立し

ながらも協力することで、大きな力となったのではないのでしょうか。

学生卒業設計コンクールでは若いエネルギーをもらうことができました。新鮮な感覚のものが多く頼もしく感じましたが、さらに深く中広い作品に育ってほしいと思いました。今後、学生たちがこのようなセミナーに参加し、まちづくりの一端を体験することで、卒業設計の手がかりになれば幸いです。この学ぶ環境づくりも建築家の役割ではないでしょうか。

最後になりましたが、会員、賛助会員の皆様、参加ご協力いただきありがとうございます。松本市美術館の皆様にもこの場をお借りしてお礼申し上げます。

文化講演会に参加して

尾日向 辰文

今回で17回となる文化講演会は、講師に谷口建築設計研究所顧問の建築家、高宮真介氏を迎えて『建築の場所性について』というテーマで講演をしていただきました。谷口建築フリークの私には、願っても無い機会です。

講演は「建築は場所性とプログラムで成り立つが、場所性に重きを置いている」と、同じプログラムでありながら異なる表現の資生堂と土門拳を紹介して始まり、流れるように一気にテーマに突入しました。「コンテキストを解説しデザインに刻印する」「風景をつくる、風景につくられる」とするその建築の手法を「境界、出入口、通路、中心と周縁」という4つの要素に分け、それぞれ

について実例を通して、とても分かりやすく解説してくれました。明日からでも谷口建築を自分のモノにできそうなくらいです。(そんなにたやすくありませんが…) 講演の後、会場からの質問に答え、谷口さんとのパートナーシップ、イサムノグチやランドスケープデザイナーとのコラボレーション、MoMAの設計方法などのエピソードを聞いたのも講演会ならではの経験でした。

JIAの文化講演会は、第一線で活躍されている建築家の生の話を聴く事ができる貴重な機会です。私も若い頃から楽しみにイベントでした。今回の講演も一般の方も大勢聴講されました。みなさんそれぞれに仕事の糧にいただけたことでしょう。



会員作品展に出展して

野口 大介

前回の建築祭・会員作品展に引き続き、参加させていただきました。

今回は、昨年出版した『信州の建築家とつくる家第5集』の本の個人ページをパネル化しての参加でした。統一されたデザインのパネル展示は美しさ、そして迫力があります。

会員作品展に出展する事は、私にとって二つの意義があります。まず一つ目は、会員作品展に毎回参加すること。そして会員の方の展示を見せていただくことです。自分自身参加する為には、作品展に出展しても自分なりに恥ずかしくないものを、また説明の付く内容のものをつくりださなければいけないと。設計をしている時、また現場監理の時に常に心にあり、迷った時などは後押ししてくれることもあります。

参加すること、展示を見せていただくことが刺激になり、自身の常日頃の仕事にも影響しています。JIA長野県クラブに在籍させていただける意義でもあります。

二つ目はJIA長野県クラブの活動を一般の方々に観ていただく機会だと云う事です。本の出版事業も同様ですが、展示となるとわざわざ会場まで出向かないと観ていただく事が出来ないのです。本屋さんで立ち読み程度の方よりも、より関心がある方が来ていただいているはず。実際、昨年の建築展の会員作品展を見学に来て、その後仕事に繋がった例がある様です。

次回もぜひ開催していただき、参加させていただければと思います。



会員作品展出品者一覧

赤羽吉人・甘利享一・荒井洋・新井優・安藤政英・池森梢・小川原吉宏・尾日向辰文・片倉隆幸・勝山敏雄・上村保弘・川上恵一・菊池弘之・吉川一久・君島弘章・宮本忠長・倉田政人・倉橋英太郎・小宮山直樹・清水国寿・須田考雄・武田誠彦・児野登・長島三夫・西沢利一・野口大介・林隆・平井敦典・広瀬毅・福島透・藤松幹雄・松下重雄・丸山幸弘・山口康憲・山田健一郎・吉田満・丸山和男（敬称略）

第18回 長野県卒業設計コンクール審査講評

山梨地域会 奈良田 和也

今回初めてJIA長野地域会の開催する「長野県学生卒業設計コンクール」の審査員として参加しました。私自身勉強になることもあり大変楽しい一日を過ごしました。

以下に講評を各部門別に感じたことを述べます。

●**高等学校の部**：全体にレベルが高く感じられた。自由な発想な作品と、すぐにでも実施できそうな作品と高校ごとに方向性が分かれており学校ごとの教育方針も垣間見えて、多様性がありよいと思いました。プレゼンテーションの方法として「起承転結」に従って作品を仕上げるようにすればより良くなると思います。

●**専門学校の部**：独自の切り口での作品が多く優劣をつけるのに悩まされました。建築を建物という捕らえ方でなく使われ方から

の発想の作品が多く興味を惹かれました。プレゼンテーションも発想をリアルに表現してる作品が多く大変良いと思いました。

●**大学の部**：全体にプレゼンテーションの技法等、卒業設計ということ考えると、レベルが充実してると感じました。高校の部・専門学校の部と比べると特にプレゼンテーション力はやはり抜きん出ていると思います。ただ内容においては、もうひとつ深く掘り下げてみてはどうかと思う作品もありました。

山梨には建築系の専門学校・大学が無いので学生の卒業設計を生で見る機会がないので大変刺激を受けました。また参加する機会がありましたらよろこんで参加したいと思います。

群馬地域会 長井 淳一

初めて長野の学生作品を審査するにあたり、歴史的街並等を背景にした地域性のある作品を思い描いていましたが、予想を反し今の世代らしい感性での着想、社会的テーマの捉え方が印象的でした。

高校生の部では、建築へのはつらつとした憧憬を感じるのと裏腹にその表現力のはがゆさがありました。その中で金賞作品は完成度が高かった。まずは基礎力そして建築を身体で感じることを高校生へのエールとしたい。

専門学校は対照的な作品が賞を分けた。惜しくも賞に漏れた中でも壮大なテーマへの挑戦や、ひたむきに自己表現をした作品等印象深く、

全体的に高いレベルでした。実社会に出て更なる飛躍を期待します。

大学は個性のある力作が多かった。ここでは受賞に漏れた学生にエールを送りたい。香川君の着想は絶賛、そこに目を凝らして何かを見つけて欲しい。藤岡君の造形は風景のようで美しかった、次は空間の質に挑戦。一際造形力を感じる加藤君、これを広い視野で伸ばして欲しい。田中君の歩いてみたくなるスロープ建築、更なるアクティビティー追求を期待する。原君の地道な調査と分析力を評価、その先に新しいアイデアが見えている。充実感と疲労感いっぱい審査会でした。失礼な発言もあったと思いますがお許し下さい。

新潟地域会 塚本 久志

高校から大学とテーマも様々で、多くの野心的な案が並び審査に苦労しました。短い時間でどれだけの確に読み取って上げられたのかと、いつも考えさせられます。高校生の作品では、建築入門したばかりの生徒たちのまじめな取り組みを感じる反面、もっと無邪気で楽しさあふれるエネルギーな作品が欲しかったと思います。専門学生の作品では、全ての賞を女性が独占する結果となりました。各作品とも身近な生活の中から生まれた問題意識を、女性特有のきめ細やかさと美意識でまとめられた美しい作品でした。男性たちの作品は、ど

れもコンセプトが明確で頼もしく感じましたが、作品の仕上げ精度を上げるよう更なる努力を期待します。大学生の作品は、どれも力作でした。何よりも嬉しく思った事は、それぞれの学生が自分のふるさとを再認識し、未来へ向けて提言を行った事でした。その中で金賞受賞の竹森君の作品は、都市と地方の問題を融合し解決しようとした点が総合評価を受けたと思います。又、特別賞の鈴木君の作品は美しかったです。水墨画の様でもありアンドリュウワイエスの哀愁漂う絵のようでもありました。今後の皆様の御活躍を期待しております。



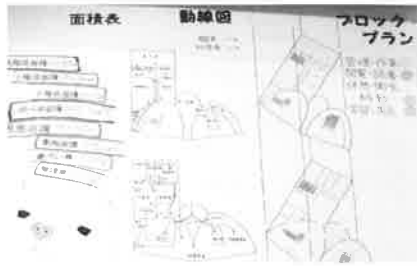
第18回 長野県学生卒業設計コンクール 審査結果

	賞名	学校名	受賞者名	作品名
大学の部	金賞	信州大学工学部	竹森 恒平	incomplete wall - 地方都市郊外部における生活体験型クラインガルテンの設計-
	銀賞	信州大学工学部	脇坂 日南子	Life
	銅賞	信州大学工学部	高木 美帆	sky project
	審査員特別賞	信州大学工学部	鈴木 久雄	MASSAGE BRIDGE
専門学校の部	金賞	上田情報ビジネス専門学校	岡田 綾美	縁紡ぎ ~ 日本文化の伝承 ~
	銀賞	上田情報ビジネス専門学校	宮坂 亜貴	心にいっぱい思い出を。~ 心豊かな大人になるための、子供が集う児童館 ~
	銅賞	上田情報ビジネス専門学校	上野 祐未	幸せな待ち時間 ~ 退屈な待ち時間をhappyにする方法 ~
	奨励賞	上田情報ビジネス専門学校	林 朋美	結のシュウラク ~ 広がり続ける長屋の根 ~
高校の部	金賞	長野工業高等学校	田中 郁美	一休
	銀賞	長野工業高等学校	岩淵 沙織	メテオラ ~ 飛行石 ~
	銅賞	上田千曲高等学校	松岡 佑樹	シャッターの閉まらない商店街
	銅賞	長野工業高等学校	小林 康平	老人ホーム「ぶどう」
	銅賞	飯田長姫高等学校	金子 健吾	アップルシンフォニーホール

■審査員(敬称略6名) 赤羽吉人(審査員長・長野県クラブ)、長井淳一(群馬地域会)、奈良田和也(山梨地域会)、塚本久志(新潟地域会)、山口康憲(長野県クラブ)、片倉隆幸(長野県クラブ)

学生卒業設計コンクール出品者一覧

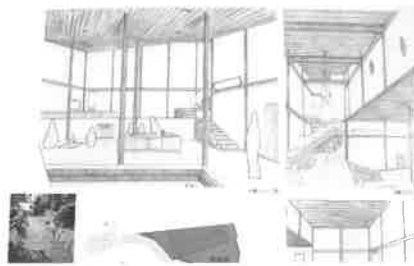
岩崎裕人、岩淵沙織、小林康平、田中亜季、田中郁美、平栗京磨、川端凌平(長野工業高校) 松岡佑樹、小林亮、与那嶺ジョアン、小松哲也、鳴澤皓史、上原大輔(上田千曲高校) 降旗翔、山口祐太(池田工業高校) 井原翔、大木島将、金子健吾(飯田長姫高校) 小林弘、上野祐未、園田奈美、小林真樹、小林亮太、山岸京平、岡田綾美、土屋真一、宮坂亜貴、百瀬将吾、中村律王、林朋美、関博之(上田情報ビジネス専門学校) 香川翔勲、高木美帆、藤岡佑介、竹森恒平、加藤光、田中邦幸、鈴木久雄、脇坂日南子、原尚平(信州大学)



長野工業高等学校
田中 郁美

作品が完成するまで苦勞の連続でした。こんな形にしたい、こんな場所に建てたいなど取り入れたいことが多すぎて、先へ進まない日が何日も続きました。今思い出すと家でも学校でも考えていた気がします。エスキスを何度もやり直し、図面を書き始めたのはクラスで最後でした。今回初めてフリーハンドで図面を書きましたが、直線や細かいところがうまく書けず苦しい思いをしました。模型は直線と曲線の部分のつなぎ目がうまくできず、何度もやり直しました。完成まで長い時間をかけてきたが、3年間の集大成として納得の行く作品になりました。

審査会では自分では気づけなかったいい点、悪い点がわかり、非常に勉強になりました。特にご活躍されている建築家の方の『実際に建ててみたいね』の一言はとてうれしく、心に残っています。また、大学生や専門学校生の完成度の高い作品を見ることができ、たくさん刺激を受けた。これからの作品作りに生かしていきたいと思っています。



上田情報ビジネス専門学校
岡田 綾美

多くの方に自分の考えを聞いていただける場というのが今まであまりなかったので、良い機会を与えていただいたと思っています。この卒業設計は、私にとってすごく思い入れの強い作品です。研究のサブタイトルにもあった「日本文化の伝承」が作品の根底にあり、調べていく中で、「日本の文化」とは人々の生活そのもののように感じました。先生方にご指摘いただいたことをふまえ、これからも考えていきたいテーマです。実際に制作に取り掛かったのは11月頃からです。テーマやコンセプトは6月頃から模索していました。これだけ長いスパンで制作に取り組んだのも初めてでしたし、高低差の激しい土地を計画地に設定したのも初めてでした。学校の先生、クラスみんなの力を借り、形にすることができて本当に嬉しかったです。説明したいことがありすぎて、要点を絞ったプレゼンテーションをすることができなかつたのが心残りです。学生コンクールでは、同じ世代である大学生や高校生の作品を見ることができ、とても刺激を受けました。これらの経験を生かして、建築業界で頑張りたいです。ありがとうございました。



信州大学
竹森 恒平

私は卒業設計を行うにあたり、地方都市の郊外部において、街づくりとしての視点からプログラムを組み、それを1つの建築として設計に落とし込むことを考えました。その中で重要なテーマとなったのが「地域性」でした。それに関しては、審査員の方々がおっしゃっていた「この大会を長野でやる意味」や「JIA長野クラブとして考えること」などにも通じていると感じました。私も「長野だからこそできる建築」や「飯山市中条だからこそ考えられる建築」があるのではないだろうかという思いで製作にあたり、このような観点からプレゼン、協議させていただくことで、今の時代においてこのテーマに重要な意義があるのではないかなと思うようになりました。卒業設計を通じて、今まで様々な面で支えてくださった皆様への感謝の気持ちと、大会でご指摘いただいた設計の甘さ、そしてその中で考えた「地域性」というテーマ、これらを糧とし、今後も日々の研鑽を重ねていきたいと思っています。



第18回保存問題神奈川大会に参加して

丸山 幸弘

2月28日(土)、29日(日)に神奈川県横須賀市にて開催されました。28日は横須賀周辺の近代化遺産(岡村製作所、相模運輸倉庫)の見学と横須賀市内(上町)ウォッチングをしました。横須賀市はご存じのとおり100年以上前より海軍施設建設に伴い発展してきた町です。今尚、その当時の施設が使用され現存しています。その歴史的背景の象徴ともいえる諸施設を近代化遺産と捉え保存活用していこうとしています。岡村製作所(事務用品のオカムラ)は旧海軍の施設を利用し工場ラインとして使用していました。また、相模運輸倉庫は岡村製作所の製品倉庫として活用していました。また、このような軍関係の建造物は、軍が使用している施設や民間が払い下げて使用している施設が至る所に点在し活用する事が検討されています。

29日は浦賀に移動して、浦賀ドック見学と構内でのシンポジウム開催となりました。浦賀造船所ドックは戦後も自衛艦建造、米空母ミッ

トウエイの改修、日本丸建造など行われた施設だそうです。2003年に住友機械工業との合併の際、工場集約のため閉鎖されました。以後、市民、行政、企業との間で利活用を模索している状況です。私達、建築家はこれらの施設を見た場合、歴史的建造物として見ますが、市民、行政、企業は歴史的価値など、あまり感じている事が少なく私共との壁が有るように感じます。この大会に参加して、横須賀ではこの壁が少しずつ崩されつつ有ることが分かりました。また、一般的に利活用というと行政が、何か1つの施設を定め大資本を投入するイメージがありますが、横須賀の場合、時間を掛け市民や行政、企業などが共同しあまりお金を掛けずに検討している点に感心しました。来年は山梨で開催となります。お隣の県でもあり長野県クラブとの交流も厚いので皆様のご協力を願います。よろしくお願いいたします。



賛助会だより

まち・ひと・建築

(株)コーティングコーポレーション 佐藤 隆志

昨年末、前任の中川から引継ぎました佐藤です。積極的に参加していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、初めて建築祭に参加させていただきました。ご参加された方々においては、大変お疲れさまでした。今回の共通テーマ「まち・ひと・建築」について記したいと思います。

建築：私も前任者の中川と同じく県外出身者です。東京で約30年過ごし、この長野県に移り住んで14年になります。私が職に就いた頃の東京はバブル絶頂への階段を駆け上がっていた頃で、携わっていた建築業界での仕事は華やかな時代でした。バブル時代に出来た建物は取り壊された物も多く寂しいことですが、残していただきたい建物も沢山あります。現在も東京中央郵便局など、取り壊しの危険にさらされていますが是非残して欲しい建物の一つです。

ひと：弊社は塗装・左官を主に施工している会社です。現在の苦勞の一つに職人さんとのコミュニケーションがあります。単価も本当に厳しい時代になり、安い手間でよい仕事をして

もらうことを伝える事が苦勞です。若い職人さんを育て次の世代に伝えていくことも大切な仕事として認識しています。職人さんとうまくかみ合わない時は得てして現場もうまくいかないものです。職人さんとうまくいけば監督、工務店、施主、設計士の全てが納得できる仕上げが可能になります。基本的なことですが、今一番大切に考えて時間を費やしている部分です。

まち：私が長野に住んで感激しているのは、春夏秋冬があり、その季節毎に見合う街並みが多数あることです。渋温泉(猿園)の散策は私のお気に入りの一つです。仕事で町並みと不釣合な建物を施工することも多々あります。「この場所にこの建物はないよなあ」と話しながらも、仕事なのでこなしています。古い町並みの保存は時間も手間もかかると聞いています。しかしながら、次世代のために出来る限り残したいものです。たまに東京に帰ると、少し空気がきれいになったと感じるのは嬉しい事の一つですが…。

建築祭に参加して

(株)本久 岸本 貴志

初めての松本での建築祭は美術館との共同企画へと発展し、われわれ事業委員会のメンバーもわくわくした気持ちで準備を進めることが出来た様に思います。それぞれのイベントは主題である「見つめよう 暮らしの場」にリンクしたものでありますが「学生卒業設計コンクール」において選ばれた作品にもそんな傾向があった様でしょうか？

この日は他の展示会も催されておらず人出が少ない状況に一時暗い気分になりかけたことは確かですが、学生たちにとって今回は特に良い(会場のにも)体験であった筈、そして満たされた気分を感じていただけたんじゃないかと思っています。私自身、懇親会場に入れば不安も一転やはり素晴らしく、あの様な特異な建築空間で貸切パーティなどという経験は稀なこ

とでありますし気分は上々。もう少し居たいというところで終わりの時間となってしまったわけですが、夜の集団移動中においても松本在住の建築家は「この建物いいでしょう」と回り道というか案内をしてくれます。この様に「見つめよう 暮らしの場」はその日の催しが終わってもまだ続いていたのであります。

翌日、「文化講演会」を迎えて人も大勢集まり「会員作品展」会場にも多くの見学者が訪れるのを見て安心したというのがやはり本音です。文化レベルが高いといわれる地域柄ですが、全体的に浮かれていられないという雰囲気の中、身近な暮らしをテーマとした催しが行われたことに意義を感じ、継続することで地域のモデルケースをもつくりたいのではないかと感じました。

会報 Vol.77 掲載記事について

JIA長野県クラブ会長 赤羽 吉人

2008年3月25日に発行しました当クラブ会報Vol.77の誌上において、信州大学建築学科の教育方針およびカリキュラムや年間行事予定等に対し十分な理解をすることなく、信州大学並びに諸先生方への配慮を欠いた一方的な意見を掲載したことに対し、遺憾の意を表しますと共に、諸先生方を初め信州大学の皆様に対し謹んで陳謝申し上げます。

また日頃より当クラブの活動に多大なご協力をいただいているにもかかわらず、当クラブの運営の未熟さにより、先生方への社会的儀礼を欠く失礼の段、不信の念を懐かせた活動の運営等に付きまして併せてお詫び申し上げます。

JIA長野県クラブは今回の事態を真摯に受け止め、反省の上立って今後の活動を行ってまいります。今後も当クラブとその活動に対し、諸先生方を初め信州大学の皆様による今まで以上のご理解とご指導・ご鞭撻賜りたくお願い申し上げます。謝罪の言葉とさせていただきます。

■今後の行事予定

- 4月13日(月) 幹事会
- 4月18日(土) INAXセミナー(松本)
- 5月9日(土) 通常総会

■会員のお知らせ

受賞おめでとうございます。

第9回長野県建築文化賞において、長野県クラブから大勢の方が受賞されました。

◇一般部門

- 優秀賞…児野 登 「西駒郷 さくら寮」
- 奨励賞…荒井 洋 「小澤メンタルクリニック」
- 特別賞…倉橋英太郎 「ホテル アルモニープラン」

◇住宅部門

- 最優秀賞…広瀬 毅 「霊仙寺の家」
- 優秀賞…清水 国寿 「滋野の舎(いえ)」
- 優秀賞…林 隆 「黒い筒の家」
- 奨励賞…甘利 享一 「岩村田の家」
- 奨励賞…林 隆 「軽井沢S別荘」
- 奨励賞…倉橋英太郎 「倉橋邸蘇生術」
- 奨励賞…小川原吉宏 「格子デッキの家」

編集後記

JIA長野県クラブの年間のなかでもっとも大きなイベント「建築祭」が無事終了しました。本年度から松本市美術館との共同開催で新たな試みが始まりました。事業の立ち上げから運営まで携わった方々本当にご苦勞様でした。会報の在り方、内容等も色々な意見を踏まえながらより一層内容を充実していきたいと思っております。……………広報委員長 勝山敏雄

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。